

27. ^{111}In -chloride 骨髓シンチグラフィの血液疾患における有用性の検討
——骨髓生検像との対比を中心として—— 藤島 譲他 1438
28. 当院における甲状腺癌の ^{131}I 内用療法の現況 川瀬 良郎他 1439
29. $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ を用いた甲状腺シンチグラムの検討 伊藤 信昭他 1439
30. $^{201}\text{Tl-Cl}$ による甲状腺癌の転移の検出 永井 清久他 1439
31. 甲状腺腫瘍におけるタリウムシンチグラフィの有用性について 佐藤 伸夫他 1439
32. 甲状腺髓様癌および副腎褐色細胞腫における ^{131}I -MIBG シンチグラフィ 曽根 照喜他 1440
33. Non-functioning parathyroid Cyst のシンチグラム：特徴的な集積像について 福永 仁夫他 1440

一般演題

1. 肺癌における最近の各種腫瘍マーカーの検討

新屋 晴孝 平木 祥夫 藤島 譲
戸上 泉 加地 充昌 白神 敏明
武田 芳弘 木本 真 上者 郁夫
橋本 啓二 森本 節夫 青野 要
(岡山大・放)

原発性肺癌23例(腺癌7例, 扁平上皮癌7例, 小細胞癌7例, 大細胞癌2例)について CA 125, NSE, SCC の値を測定した。

肺癌全体での陽性率は, CA 125 は cut off 35 U/ml で 52.3%, cut off 65 U/ml で 34.8%, NSE は cut off 10 ng/ml で 33.3%, SCC は cut off 2 ng/ml で 42.9% であり, それぞれ腺癌, 小細胞癌, 扁平上皮癌で他の組織型に比し高い陽性率を示した。

臨床病期別では, CA 125, NSE は病期の進行に伴い增加傾向がみられたが, SCC にはみられなかった。

3種の腫瘍マーカー間には, 相関はみられず, 肺癌の組織別に応じた腫瘍マーカーの選択が有用であると思われた。

2. 肺癌における各種腫瘍関連抗原(CEA, TPA, CA-125, SCC)測定の意義

福永 仁夫 柳 真佐子 大塚 信昭
曾根 照喜 永井 清久 村中 明
吉川 高子 柳元 真一 友光 達志
森田 陸司 (川崎医大・核)
松島 敏春 (同・呼吸器内)

肺癌51例(腺癌26例, 扁平上皮癌20例, 未分化癌5例)について, その血中 CEA, TPA, CA-125, SCC, NSE 濃度を測定し, その臨床的意義を検討した。腺癌では扁平上皮癌に比して, CEA, CA-125 濃度の高値例が多く, 他方, 扁平上皮癌では SCC 濃度の高値例がより多く観察された。TPA に関しては, 腺癌, 扁平上皮癌ともにほぼ同等の陽性率を示した。未分化癌では NSE の高値例が多く観察された。

TPA と CEA 濃度を測定し, 併せて評価すると, 腺癌および扁平上皮癌ではともに, 90%以上の陽性率を示した。

3. NSE (r-エノラーゼ) と塩野義「SD-8570」の比較検討

久保 嘉彦 片岡みどり 赤木 直樹
小川 恭弘 (高知医大・放部)
西岡 正俊 山本 洋一 前田 知穂
(同・放)

二抗体法による Neuron Specific Enolase の測定用キ